

創立  
35周年

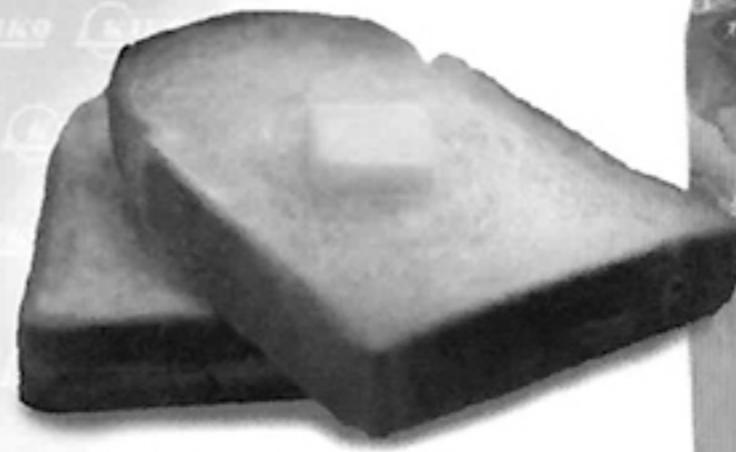
# 記念公演

第7回

# 琉球古曲、音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会関東支部

みなさんの食卓に  
おいしい幸せを  
お届けします



もちっと食感



城そばセット



木灰風仕立ての沖縄そば



オキコラーメン



シーサーがいっぱい



紅いもころころ

おいしい幸せ  
**オキコ**

<http://www.okiko.net>

第7回

# 琉球古典音楽の会

創立35周年

記念公演

公演プログラム

平成26年2月9日開催

琉球古典音楽野村流保存会関東支部



## ご挨拶

琉球古典音楽野村流保存会 関東支部 支部長  
第7回関東支部記念公演 実行委員長

水谷 亮介

本日はご多忙の中、関東支部の創立35周年記念公演「第7回琉球古典音楽の会」にご来場下さいまして、誠にありがとうございます。

私事ですが、今を遡ること23年前の平成2年の秋、横浜市出身のヤマトンチュである私は、三線の音色に魅了され、故仲宗根忠栄氏に入門しました。入門当初、琉球古典音楽の代表的楽曲である「かぎやで風節」も知らなかった私が、本日支部長として、浅草公会堂の舞台に立てるだけでも光榮なことでございます。今は亡き仲宗根忠栄師匠、前支部長の宮城秀夫相談役、関東支部創立にご尽力された仲宗根善久先生、常に未熟な私を支えて頂いた大城貞吉・小西睦子両副支部長、濱田武志事務局長他、開東支部会員一同、日頃よりお世話になっております関係諸団体の方々に対して、先ずはこの場を借りて感謝の意を捧げたいと思います。

さて、昭和53年に創設された関東支部も早いもので35年が経ちました。創立当初は20名前後であった会員数も、現在では百余名を数えるまでとなりました。時代の流れもあり、ヤマトンチュの会員が半数以上を占める中、師範・教師免状取得者、また沖縄タイムス伝統芸能選考会での合格者が数多く出ていることに、支部長として誇りと喜びを感じております。琉球古典音楽は沖縄を越えて、日本各地にも広く浸透していることを、改めて実感する次第です。

我々関東支部の会員一同、本日の記念公演に向けて、一生懸命稽古に励んで参りました。その成果を、本日お越し頂きました皆様に感謝の気持ちを込めて、お見せしたいと思います。どうぞ最後までお付き合い下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

本公演へのご出演には、勝連繁雄会長をはじめ沖縄本部の諸先生、琉球箏曲保存会の宮城光子会長をはじめ諸先生、並びに関東にてご活躍の各琉球舞踊研究所の諸先生よりご協力を賜りました。本日の栄えある記念公演に、必ずや花を添えて頂けることでしょう。また、後援、広告掲載等にご協力下さいました皆様に、心より厚く御礼を申し上げます。

最後に、皆様のご健勝を祈念申し上げまして、私からのご挨拶と致します。

平成26年2月9日



## 祝辭

沖縄県知事

仲井眞 弘多

琉球古典音楽野村流保存会関東支部創立35周年記念公演「第7回琉球古典音楽の会」が、華やかに開催されますことを心からお慶び申し上げます。

琉球古典音楽野村流保存会関東支部におかれましては、昭和53年に創立されて以来、会員同士が結束と精進を重ねてこられ、関東地区において35年にわたり地道な活動を展開しておりますことは、大変喜ばしい限りであります。

遠く離れた関東地方においてこのような沖縄文化の伸展が見られることは、会に連なる師範の先生方及び会員の皆様の情熱とたゆまぬ努力の賜物であり、琉球古典音楽を通して沖縄文化の普及発展、交流に大きく貢献されていることに対し、心から敬意を表します。

御承知のとおり、沖縄の芸能文化は、琉球王国時代から様々な異文化の影響を受けつつ、独自の美学と感性で育まれ、発展し続けてきました。

なかでも、琉球古典芸能は、多くの先人たちにより、たゆみなく守り伝えられてきた県民の貴重な財産であります。

このような芸術性の高い伝統芸能を、次の世代に正しく引き継ぎ発展させていくことは、心豊かで文化の薫り高い沖縄県づくりを進めていくうえで、大切なことです。

琉球古典音楽野村流保存会関東支部の皆様を始め、この記念すべき公演に御出演の皆様におかれましては、先達が作り上げてきた魅力ある琉球古典音楽のさらなる普及発展に引き続き御尽力くださいますようお願い申し上げます。

最後に、本公演の御盛会と琉球古典音楽野村流保存会関東支部の今後ますますの御発展並びに会員の皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成26年2月9日



## 祝辞

琉球古典音楽野村流保存会 会長

勝連 繁雄

琉球古典音楽野村流保存会関東支部が創立35周年の節目を迎えるに当たり「第7回琉球古典音楽の会」として記念公演が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

関東支部は仲宗根善久氏のご尽力によって昭和53年3月12日、20名前後の有志によって結成(初代金城芳子氏を選出)されたといいます。その後、水谷亮介現支部長までの35年の間に会員数も100名余にまで増え、関東支部は大きく発展して参りました。歴代の支部長、役員・会員の皆様のご努力によるものと心からの敬意と感謝を申し上げます。

私は1960年代、学生時代を含めて6、7年間、東京で暮らしていましたが、東京に三線研究所なるものは皆無であり、本土の方々の琉球音楽への関心、理解も十分ではなく、郷愁にかられたりすると、池袋や新宿などの琉球料理店に通い、そこで三線を借りて弾いたりしていました。現在のように研究所がいくつも誕生し、大都会で堂々と三線が弾き歌われる日が来るとは、夢にも思わないことでした。関東支部の結成は歴史的な旗揚げであったといえます。

関西支部もそうですが、関東支部においても当初はウチナーンチュ中心の団体だったのが、現在ではヤマトンチュの会員が圧倒的に増えたといいます。琉球古典音楽が県外の方々にその魅力と価値が浸透し始めたという証であり、喜ぶべきことあります。沖縄タイムス伝統芸能選考会には貴支部からも応募者が多く、新人賞、優秀賞、最高賞の合格者が輩出しており、またグランプリ受賞者も何名も出ております。将来が益々楽しみであります。

沖縄の芸能は今や世界の多くの人々にとっても関心を持たれるほど素晴らしい精神文化として認識され始めております。私たちはそのことに誇りと喜びを感じると同時に浮かれてはならないと思います。貴支部においても音楽活動を通して沖縄の伝統文化への理解を深め、会員相互の親睦にも繋がっていると伺っています。

35周年の節目を契機に会員の皆様が益々ご精進され、更なる結束を固めて素晴らしい支部に発展させて頂きますようお願いを申し上げます。記念公演のご成功をお祈り致します。

平成26年2月9日



## 祝辭

琉球箏曲保存会 会長

宮城 光子

本日ここに琉球古典音楽野村流保存会関東支部の創立35周年記念公演が開催されますことを心よりお慶び、お祝い申し上げます。

琉球箏曲保存会の創立55周年記念公演の折は物心両面よりの御協力に感謝申し上げ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

また、日頃は当会の為に何時も勉強の機会を設けて下さり、御指導御鞭撻を賜りまして会を預かる者として感謝の気持ちでいっぱいです。今後ともよろしくお願ひします。

関東支部の皆さんには沖縄の芸能の素晴らしい目に向けられ、お互いに切磋琢磨して力をつけ、沖縄タイムス社の選考会でも年々素晴らしい実績をあげています。今や沖縄の芸能は皆様方を始め日本全国津々浦々で歌い継がれ普及発展し、国からも認知され組踊も世界遺産に認定され、発展の一途を辿っております。

その反面課題も何点かございます。特に箏の場合、会員の高齢化にともない会員数が年々減少しています。打開策としていたしまして月一回の定例の研究会の実施、普及賞の開設、年一回の独唱会の開催等を実施しています。そして、これらの効果は一気には出て来ませんが徐々に出て来てくれればと期待しています。

昨年の12月20日には県の補助事業で沖縄県伝統芸能公演「若い息吹島の肝心」のタイトルで、若手実演家が出演し盛会裡に終えることができました。東京からも若手演奏者が参加し立派に舞台をつとめて下さいましたことを皆様方に御報告致します。

私も含め関東支部の指導者の皆様に課された課題は、一人でも多くの弟子を後継者として育成することだと思います。そして近い将来皆様方の中から多くの伝承者が輩出され、願わくばそのなかから保持者が認定されることをお祈りします。

最後になりましたが、水谷支部長をはじめ実行委員の皆様が取り組んでこられた本日の記念公演が素晴らしい舞台になりますよう祈念申し上げます。本日は誠におめでとうございます。

平成26年2月9日



## 祝辞

沖縄タイムス社 代表取締役社長

豊平 良孝

琉球古典音楽野村流保存会関東支部創立35周年記念第7回「琉球古典音楽の会」が開催されるにあたり、一言、お祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

関東支部は1978年に仲宗根善久師匠を中心に14人の有志で結成されたとお聞きしています。本部の結成が1955年ですから23年後のことになります。琉球古典音楽の本場である沖縄本島、ふるさとを離れ東京、関東の地で生活する県出身者にとって、琉球古典音楽は、ふるさとへの思い、郷愁を共有する一つのツールであったことでしょう。

そうしたふるさとを離れた人々が集まって、歌への思いを募らせる会は次第に県出身以外の人にも関心を誘ったことでしょう。いまや沖縄音楽は沖縄ブームの大きなウエイトを占めるものになり、三線ブームを作り上げています。沖縄タイムス社が毎年夏に開催している伝統芸能選考会でも多くの県出身者が挑戦するようになってきました。その現場では、本場の人々よりも本土の方々のほうが、稽古熱心だという話もお聞きしております。定期的に稽古に通う愛好家であっても日常的に師匠の教えを乞える立場にない人ほど師匠の芸を盗もうと真剣なのではないでしょうか。

さて、琉球芸能が今日ほど内外の注目を集めていることは過去にないといわれます。2009年に「琉球舞踊」が重要無形文化財に認定され、沖縄の宝から日本の宝になりました。さらに翌2010年には「組踊」がユネスコの無形文化遺産リストに登録され、世界の宝になりました。冒頭、野村流古典音楽保存会ではなく、琉球古典音楽野村流保存会と申し上げたのも、そうした動きを受け、昨年12月に本部のほうで名称変更が行われたためです。関東支部の今回の記念公演は、その改称後の記念すべき舞台にもなります。本部からも国吉正康相談役、勝連繁雄会長ら40人が駆けつけ舞台に花を添えてくださることになっています。公演の成功をお祈りし、関東支部のますますの発展を願い祝辞と致します。

平成26年2月9日



## 祝辭

琉球新報社 東京支社長

玉城 常邦

本日、琉球古典音楽野村流保存会関東支部の創立35周年記念公演「第七回琉球古典音楽の会」が開催されますことを、会場の皆さまとともに心からお慶び申し上げます。

関東支部は仲宗根善久先生を中心に1978年（昭和53年）3月、14人の有志の方々のご賛同で結成され、現在は11教室、会員数約100人を数えているとお聞きしております。結成された1978年といえば、沖縄では右側通行から左側通行に交通方法が変更された7・30（ナナサンマル）が実施された年で、沖縄の本土復帰事業の主なものがすべて終わった年でした。

関東支部結成時は1972年（昭和47年）の本土復帰からまだ6年のことで、ここ関東の地では、沖縄はまだ遠い存在だったことでしょう。それだけに、関東での琉球古典音楽の継承、普及には大変なご苦労もあったことと思います。それを乗り越えて35周年の節目を迎えたことは、仲宗根善久初代支部長から現在の水谷亮介支部長までの歴代支部長、そして会員の皆さまの弛まぬ研鑽と琉球古典音楽への情熱があったからこそだと思います。琉球王国時代に生まれた琉球古典音楽の神髄を脈々と受け継ぎ、関東の地で琉球古典音楽を広めてこられた関東支部の皆さんに心から敬意を表したいと思います。

琉球古典音楽は2000年（平成12年）に国の重要無形文化財の指定を受けております。

沖縄県内の関係者だけでなく、本土で活動する皆さまのこれまでのご努力の賜物だと言えます。今後とも、世界に誇る琉球古典音楽の高い芸術性にさらに磨きをかけ、重厚な響きで多くの人々の魂と感性を揺さぶり続けることを期待しております。

結びに、本公演のご盛会とご出演される方々のさらなるご活躍を祈念申し上げ、祝辞といたします。

平成26年2月9日



## 祝辭

東京琉球舞踊協会 会長

川口 喜代子

琉球古典音楽野村流保存会関東支部の創立35周年記念公演、誠におめでとうございます。

琉球古典音楽野村流保存会関東支部は昭和53年3月12日に仲宗根善久先生を中心に14名のメンバーで立ち上げられたとのこと、そして9年目に第一回の公演を開催され現在に至るまで色々とご苦労されたことと思います。今回も会員一人一人が精進を積み重ね、5年に一度の公演を継続されてこられたことに対して会員の皆様に拍手を送りたいと思います。

今では会員数も100名以上に増え、今回七回目の公演が開催されるに至り、私も皆様と共に喜びをかみしめています。第一回の公演（国立劇場演芸場）には私も花風を舞台出演させて頂きました。振り返りますとあれから何年になるでしょう、長い様な短い様な時の流れの早さは只々驚くばかりです。今日は皆様の素晴らしい舞台を拝見させて頂きますね。

最後に、会員の皆様の今後とも更なるご活躍をご期待申し上げます。

平成26年2月9日



## 祝辭

琉球民謡協会関東支部 支部長

花城 昇宏

本日は琉球古典音楽野村流保存会関東支部創立35周年記念公演「第7回琉球古典音楽の会」開催おめでとうございます。

貴支部は昭和53年仲宗根善久師匠と共に14名の会員で支部を結成されて、今日に至っては百余名の方々が沖縄伝統文化三絃・箏を研鑽されていることは、同じ三絃に携わっている者としては大変喜ばしい限りです。

“和”の精神を堅持されて会員相互の連携を通しての絆。その道程においては歴代の支部長・役員の方々の熱意とご苦労の上に成り立つものではないかと心から敬意を表したいと思います。

本日は、皆様方のすばらしい演奏の唄、三絃、箏で“耳ぐすい”、舞踊で“目ぐすい”とても光栄に存じます。

今後水谷支部長を中心とした琉球古典音楽野村流保存会関東支部の益々のご発展と、本日の公演の成功と出演の皆様方のご活躍を願い、お祝いの言葉とさせて頂きます。

本日は誠におめでとうございます。

平成26年2月9日



## 祝辭

東京沖縄県人会 会長

渡久山 長輝

第7回琉球古典音楽の会の公演が、琉球古典音楽野村流保存会関東支部の創立35周年記念公演として、開催されますことは、誠に喜ばしいことあります。

琉球古典音楽は、かつての琉球王国の御冠船の座興として、大きく発展し、洗練され、高い芸術性を誇ってきました。三線に、箏、笛、太鼓、胡弓などの楽器が輻輳し、豊かな音律を奏でてきました。

音曲に、琉球古典舞踊が舞われ、芝居性のある総合的な組踊りと、琉球の伝統芸能は発展し継承されてきました。

琉球古典音楽は、民謡やゆんた、ジラバなど、独特の琉球音階がもつ、多様性と豊富な音楽性の故に、数多くの創作がなされ、その民族性や地域性をこえて、日本のみにとどまらず、世界的な広がりと親しみを醸し出しています。

組踊りは、世界遺産にも登録され、高い評価を世界的に受けています。その礎となっているのが、まさに琉球古典音楽であります。三線の独唱に箏などの伴奏による琉球古典音楽は、ゆったりと、ものしづかに、幽玄の世界へと、人々を誘います。それこそ、琉球伝統芸能がもつ、すばらしい世界でしょう。

今回の公演が、各師匠のご指導のもと、研鑽をつまれた皆さまの成果がすべて發揮され、成功されますよう期待しております。

琉球古典音楽の会の皆さまが、東京沖縄県人会の多くの行事に参加され、ご協力下さっておられることに心から感謝し、祝辞といたします。

平成26年2月9日



## 祝辭

東京沖縄県人会 名誉会長  
東京琉球舞踊協会 名誉会長

仲田 清祐

琉球古典音楽野村流保存会関東支部創立35周年記念公演「第7回琉球古典音楽の会」が沖縄から国吉正康相談役、勝連繁雄会長をはじめ会員40名、さらに琉球箏曲保存会宮城光子会長をお迎えして盛大に浅草公会堂に於いて開催されます事を心からお祝い申し上げます。

関東支部の皆様方には東京沖縄県人会、東京琉球舞踊協会の行事・公演に毎回積極的に参加して多大なご支援、ご協力を頂いておりますことを謹んで御礼申し上げます。

郷里の音楽こそ珠宝なりと信じて、郷里を愛するウチナーンチュ14名が仲宗根善久先生を中心に昭和53年3月関東支部（金城芳子初代支部長）を結成しました。

結成から9年目昭和62年6月沖縄復帰15周年記念公演第一回琉球古典音楽の会（仲宗根善久支部長）が国立劇場演芸場にて開催されました。実行委員長仲本潤英先生（昨年5月、沖縄にて百歳でご逝去）は仲濱靖一先生（東京芸大講師）の助言を頂き多数の贊助出演をお迎えいたしました。今だに、沖縄から野村流保存会の大御所安富祖竹久先生、城間徳太郎先生をお迎えして華やかに盛大に開催されたことを忘れません。

以来、仲宗根八重子、仲宗根忠栄、宮城秀夫、久田友昭が支部長を務め、横浜生まれの水谷亮介支部長に受け継がれました。会員百余名の半数以上が県外出身という現実は琉球古典音楽が言葉の壁を乗り越えて国内外に愛される底力を感じております。

関東支部の若い会員の皆様が卓越した力を發揮して沖縄タイムス伝統芸能選考会で、新人賞・優秀賞・最高賞・最難関のグランプリを多数入選され、今日の隆盛を物語っておりますことは、各研究所師範・教師のご指導の賜物と心から敬意を表します。本日は日頃の稽古の成果を發揮されることを願っています。

琉球王朝時代宮廷音楽として演奏された琉球古典音楽は、羽地朝秀の政策により士族の作法は教養として広く奨励され冊封使や薩摩藩、江戸幕府に対する接遇として披露されました。17世紀から時代の荒波に翻弄されながら今日まで継承され国内外から高い評価を頂いております。

今や「組踊」と「琉球舞踊」は共に能、狂言、歌舞伎、文楽同様、国の重要無形文化財に指定されており、「組踊」は平成22年11月のユネスコ無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。沖縄の宝は日本の宝、世界の宝です。

特に歌・三線・踊りの重要無形文化財保持者（人間国宝）5名の一人、城間徳太郎先生の認定は最高の朗報でした。

沖縄の美しい自然と琉球伝統芸能文化は最高の「沖縄のおもてなし」であり、誇りに思います。琉球古典音楽の歌詞（沖縄の言葉）には上古、平安、鎌倉時代の言葉、慣わしが残っていて、沖縄の眞の歴史を垣間見る様な気がします。

最後に、貴会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。

平成26年2月9日

## 公演演目

### 第一部

司会：佐々木仁子

- |         |                             |
|---------|-----------------------------|
| ① 齊唱    | ・かぎやで風節／恩納節／辺野喜節            |
| ② 支部長挨拶 | 琉球古典音楽野村流保存会 関東支部 支部長 水谷 亮介 |
| ③ 独唱    | ・伊野波節                       |
| ④ 箏曲合奏  | ・渡りざう／瀧落菅撓／船頭節              |
| ⑤ 舞踊    | ・上り口説                       |
| ⑥ 独唱    | ・干瀬節／子持節／散山節                |
| ⑦ 舞踊    | ・花風                         |
| ⑧ 独唱    | ・仲風節／述懐節                    |
| ⑨ 器楽合奏  | ・前之浜（女性一般会員）                |

〔休憩〕

### 第二部

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| ⑩ 齊唱     | ・作田節／早作田節             |
| ⑪ 本部会長挨拶 | 琉球古典音楽野村流保存会 会長 勝連 繁雄 |
| ⑫ 舞踊     | ・高平良万歳                |
| ⑬ 独唱     | ・仲村渠節／赤田風節／本花風節       |
| ⑭ 独唱     | ・二揚下出し仲風節／二揚下出し述懐節    |
| ⑮ 舞踊     | ・かせかけ                 |
| ⑯ 独唱     | ・本調子仲風節／本調子述懐節        |
| ⑰ 舞踊     | ・加那よ一天川               |

# 第一部

## ① 古典音楽 齊唱

## かぎやで風節／恩納節／辺野喜節

### 歌・三線 琉球古典音楽野村流保存会 関東支部

宮城秀夫	水谷亮介	大城貞吉	板良敷朝英	上里民智徳	仲間功
知念良弘	興那覇朝成	柏原雄人	安田まり子	東江邦夫	登坂寛
宮尾博一	平井順子	平敷万紀子	小川友奈	中西秋桜	岩倉雄一
田添小百合	尾川竜一	伊佐徹也	仲宗根善久	仲宗根栄	徳永猛
伊差川大介	金城吉春	安場淳	仲間裕子	比嘉芳子	野村香司
石田ひとみ	粟津茂登美	赤岩千鶴子	藤高めぐみ	塚越絵里子	古河和美
玉城麻理	平井真理子	小西睦子	川野和好	及川麻理子	川野香織
川瀬美和子	新倉末子	越恵吾	安里嗣則	入迎里陽香	上原瞬
青山康和	岩片美奈子	加藤郁恵	熊倉直樹	栗原弘一	崎原育子
谷川昇	又吉和子	渡邊隆子	佐藤舞	佐藤建一郎	杉山晴美
杉山和敬	遠山泰永	大窪美登子	田畠暢弥	久保純子	神谷清輝

### 歌・三線 琉球古典音楽野村流保存会

勝連繁雄	譜久原朝次郎	上原靖弘	宮城重盛	稻嶺盛律	上里平三
上地弘子	上原隆	上原宏子	大湾朝重	我謝弘	金城亮
古波藏峰子	崎枝孫宏	城土井力	高那真清	玉那覇昭二	玉那覇有和
知念敏子	仲宗根玄雅	仲宗根盛栄	仲村善信	鳩間昇	浜比嘉宗一
前田玉枝	宮城啓子	吉田稔	吉井有紀	金城トミ	宮城康明

### 箏 琉球箏曲保存会

宮城光子	比嘉淳江	新垣春子	久田ヨシ子	中村美智子	鳩間美智子
岳原美智子	嶺井幸枝	當銘幸子	平良マサエ	末吉弘子	赤嶺スエ子
北村澄子	神谷ケイ子	日高桃子	花城スミ子	寺本さやか	大城朝子
仲宗根美花					

### 笛

菱田まき

### 胡弓

中村文子

### 太鼓

石嶺哲

### 「かぎやで風」

けふのほこらしやや なをにぎやなたてる  
つぼでをる花の つゆきやたごと

### 【歌意】

今日の喜びを何にたとえることができましょう。  
まるで薔薇の花が朝露を受けてぱっと花開くような心  
もちです。

### 「恩納節」

恩納松下に禁止の牌のたちゆす  
恋忍ぶ迄の禁止やないさめ

### 【歌意】

恩納村の松並木の下に禁止の立て札があるが  
恋愛することまで禁止した立て札ではないだろう。

### 「辺野喜節」

伊集の木の花やあんきよらさ咲きゆい  
わぬも伊集やとて真白咲きかな

### 【歌意】

伊集の花は真白な色で美しく清らかに咲いている。  
私もある伊集の木の花のように美しくありたいものだ。

② 支部長挨拶

琉球古典音楽野村流保存会 関東支部 支部長 水谷 亮介

③ 古典音楽 独唱

伊野波節

歌・三線

川野和好 越恵吾

與那覇朝成

箏

仲宗根美花

「伊野波節」

伊野波の石くびり無藏連れて登る  
にやへも石くびりとさはあらな

【歌意】

たった一人で、石混じりの坂道を登って行くのは大変辛いものであるが、愛する彼女と連れだって、互いに語り合いながら行くときはもっと、もっと、遠くあって欲しいと思う。

④ 箏曲合奏

渡りざう／瀧落菅撓／船頭節

箏 琉球箏曲保存会

宮城光子

比嘉淳江

新垣春子

久田ヨシ子

中村美智子

鳩間美智子

岳原美智子

嶺井幸枝

當銘幸子

平良マサエ

末吉弘子

赤嶺スエ子

北村澄子

神谷ケイ子

日高桃子

花城スミ子

大城朝子

寺本さやか

仲宗根美花

深沢均

池野萌南

「船頭節」

とのがやかたにうづらがふける  
なんとふけるか立ちより聞けば  
み代はながかれよもよかるしよかを

【歌意】

殿様の邸宅でうづらがさえずっている  
何とさえずっているかと立ち寄って聞いていると  
その治世は長く続き、よい世の中であってほしいと  
歌っている

## ⑤ 古典舞踊

上り口説

舞踊 玉城流七扇喜納乃会関東支部 関りえ子琉球舞踊研究所

宇夫方路 補覇美智子 関優子 関堯之 関杏那 久手堅鮎子  
渡久地美幸 栗原明子 片野すゝ子

歌・三線

水谷亮介 谷川昇 遠山泰永

箏

花城スミ子

笛

菱田まき 中村文子

太鼓

石嶺哲

### 「上り口説」

1. 旅の出立ち觀音堂 先手觀音伏せ拝で  
黄金尺取て立ち別る
2. 袖に降る露押し払ひ 大道松原歩みゆく  
行けば八幡 崇元寺
3. 美栄地高橋うち渡て 袖を連ねて諸人の  
行くも帰るも中之橋
4. 沖の側まで親子兄弟 連れて別ゆる旅衣  
袖と袖とに露涙
5. 船のとも綱疾く解くと 舟子勇みて真帆  
引けば 風や真舡に午未
6. 又も廻り逢ふ御縁とて 招く扇や三重城  
残波岬も後に見て
7. 伊平屋渡立つ波押し添へて 道の島々  
見渡せば 七島渡中も灘安く
8. 燃ゆる煙や硫黄が島 佐多の岬に走い並で  
(エーイ) あれに見ゆるは御開聞  
富士に見まがふ桜島

### 【解説】

「行けば八幡崇元寺」の“行けば”を弓矢と読んで「弓矢八幡崇元寺」であるとの論もあるようですが、上の句の「歩み行く」の行くを受けて「行けば八幡」と読む方が正しいのではないかと思われます。また安里八幡宮は尚徳王（第十七代）の一四六六年の建立でありますが、史実にも武の御宮であるとの記事もないようあります。「立ちゆる煙」と「燃ゆる煙」の二つの読み方があるようですが、タイムス社の研究会ではどちらでも良いと決められたのであります。但し舞踊の場合は「立ちゆる」と歌った時も燃ゆると歌った時も型は同じということあります。普通の歌は八八八六の三〇字になっていますが、口説は七五調の型で、先ほども申しましたように大和言葉を多く使い（エイ）と囃を歌い最後に变成了歌い方をするなど、日本歌謡の影響を多分に受けているようあります。

⑥ 古典音楽 独唱

千瀬節／子持節／散山節

千瀬節： 歌・三線  
小西睦子

箏  
日高桃子

子持節： 歌・三線  
加藤郁恵

箏  
大城朝子

散山節： 歌・三線  
岩片美奈子

箏  
花城スミ子

「千瀬節」

たまさかの今宵 とりやうたるとも  
しばし明け雲に なさけあらな

【歌意】

まれにあうことの出来た今夜は、たとえ暁を告げる  
雞（にわとり）が鳴いてもしばし明け雲が夜を明か  
してくれないように情け心があつて欲しい。

「子持節」

たるよ恨みとて泣きゆが浜千鳥  
あはぬつれなさや吾身とともに

【歌意】

そんなに悲しそうな声を出して鳴いている浜千鳥よ、  
いったい誰を恨んで鳴いているのか。私も愛するもの  
を失ってこの世ではもう会えなくなった。今の私の  
心境と同じである。

「散山節」

誠かや実か我肝ほればれと  
寝覚めおどろきの夢の心地

【歌意】

この不幸な突発事は真実本当の事なのか。  
私はぼうぜんとし、寝覚めの夢のようで信じられ  
ない。

文京区 江戸川橋地蔵通り商店街

静岡中心の品揃えですが、宇治・鹿児島・狭山  
などの産地の茶もございます。

[営業時間]  
月曜～土曜  
9:30～19:30  
定休：日曜

東京 TEL(3269)2343

## 7 琉球舞踊 雜踊

花風

舞踊 真踊流佳瑞の会瑞慶山和子琉舞道場  
瑞慶山和子

歌・三線 野村香司研究所

野村香司 石田ひとみ 粟津茂登美 仲宗根栄（贊助）

箏

神谷ケイ子 箫

笛

仲田治己

### 「花風」

三重城にぬぶて 手さじ持上げれば  
早船の習や 一目ど見ゆる

### 【歌意】

愛しいひとを見送るために三重城の丘に登り、花染手巾をそっと振ったのですが、早船の常でしょうか。あの方を乗せた船はもうすでに走り去って遠く見えなくなってしまいました。

## 8 古典音楽独唱

仲風節／述懐節

仲風節： 歌・三線  
寺本さやか

箏  
北村澄子

述懐節： 歌・三線  
又吉和子

箏  
神谷ケイ子

### 「仲風節」

誠ひとつの浮世さめ  
のよでいことばのあはぬおきゆが

### 【歌意】

世の中の事を処するには誠の心で貫く事が最も大事なことであってこの心得で凡てに接して居れば如何にしてお互の言葉にそごを来たし仲違いするようなことがあろうが決してないのである。

### 「述懐節」

をがでなつかしやまづせめてやすが  
別ておもかげのたたわきやしゆが

### 【歌意】

貴方にお会い出来て親しくお顔を拝すると恋しなつかしさで胸が一杯になり、ツイ嬉しさの余り涙が止め度なく流れるのはまあ仕方がないが、愈々お別れして貴方の傍が忘れられず遺瀬のない想いで毎日の仕事もろくろく手につかないようになったら如何しよう。

## 9 器楽合奏

前之浜

歌・三線（女性一般会員 責任者：小西睦子）

小西睦子	及川麻理子	川野香織	川瀬美和子	新倉末子	寺本さやか
佐藤舞	杉山晴美	田畠暢弥	又吉和子	岩片美奈子	
加藤郁恵	崎原育子	渡邊隆子	平井順子	平敷万紀子	小川友奈
中西秋桜	安田まり子	石田ひとみ	粟津茂登美	安場淳	仲間裕子
比嘉芳子	平井真理子	古河和美	赤岩千鶴子	藤高めぐみ	塚越絵里子
久保純子					

箏

神谷ケイ子	日高桃子	花城スミ子	仲宗根美花
-------	------	-------	-------

笛

菱田まき	胡弓
------	----

太鼓

笠原真理子

## 「前の浜節」

エキエキ前の浜に前の浜に散り飛びゆる  
 サー浜千鳥 エキサー友呼ぶ声は  
 ちりちりやちりちりや  
 エキエキ渡地の渡し舟漕ぐ舟の  
 サー櫓の音かエキサーからりころり  
 漕げば行ぢやい着ちゃい

## 【歌意】

前の浜で、連れて飛んでいる浜千鳥の仲間を呼ぶ声がチリチリチリと聞こえてくるよ。  
 渡地の渡し舟の漕ぐ櫓の音は、からりころりと軽やかで、向こう岸へ行ったりこちらに着いたりで。

## 「坂原口説」

エキエキ今日の座敷は祝いの座敷  
 亀が歌えばナー鶴は舞ふる鶴は舞ふる  
 エキエキ上り下りの坂原越えて  
 元の都にナーはや帰るはや帰る  
 元の都にナーはや帰る

## 【歌意】

今日の座敷はお祝いの座敷であり、長寿の印である亀が歌えば鶴が舞うすばらしい座敷です。  
 上り下りの坂や野を越えて、やっと元の都にはれて帰って来たよ。

## 「与那原節」

嘉例吉の遊び打ち晴れてからや  
 エイスリスリ  
 夜の明けて太陽の上るまでも  
 アスリ足拍子手拍子打ち囃子踊り  
 跳ね遊ぶ嬉しさ  
 夜の明けて太陽や上らはもゆたしゃ  
 エイスリスリ  
 己午の時までや御祝しゃべら  
 アスリ足拍子手拍子打ち囃子踊り  
 跳ね遊ぶ嬉しさ

## 【歌意】

おめでたい遊びが、たけなわになった上は、もう夜が明けて太陽の上がるまでも踊り続けましょう。  
 それぞれ、足拍子、手拍子を打ち囃せ、踊り跳ねて遊ぶ嬉しさは。  
 たとえ夜が明けて、太陽が上がってもよいではないか。お昼頃まではお祝いを続けましょう。  
 (囃し前に同じ)

## 第二部

### ⑩ 古典音楽 齊唱

### 作田節／早作田節

#### 歌・三線 琉球古典音楽野村流保存会

勝連繁雄	譜久原朝次郎	上原靖弘	宮城重盛	稻嶺盛律	上里平三
上地弘子	上原隆	上原宏子	大湾朝重	我謝弘	金城亮
古波蔵峰子	崎枝孫宏	城土井力	高那真清	玉那覇昭二	玉那覇有和
知念敏子	仲宗根玄雅	仲宗根盛栄	仲村善信	鳩間昇	浜比嘉宗一
前田玉枝	宮城啓子	吉田稔	吉井有紀	金城トミ	宮城康明

#### 歌・三線 琉球古典音楽野村流保存会 関東支部

宮城秀夫	水谷亮介	柏原雄人	安田まり子	東江邦夫	登坂寛
宮尾博一	平井順子	平敷万紀子	小川友奈	中西秋桜	尾川竜一
仲宗根善久	仲宗根栄	安場淳	比嘉芳子	野村香司	石田ひとみ
粟津茂登美	赤岩千鶴子	藤高めぐみ	塚越絵里子	佐藤舞	佐藤建一郎
杉山晴美	杉山和敬	遠山泰永	大窪美登子	古河和美	平井真理子
小西睦子	川野和好	及川麻理子	川野香織	大城貞吉	板良敷朝英
上里民智徳	青山康和	岩片美奈子	加藤郁恵	崎原育子	谷川昇
又吉和子	渡邊隆子	神谷清輝	菱田まき	中村文子	

#### 箏 琉球箏曲保存会

宮城光子	比嘉淳江	新垣春子	久田ヨシ子	中村美智子	鳩間美智子
岳原美智子	嶺井幸枝	當銘幸子	平良マサエ	末吉弘子	赤嶺スエ子
神谷ケイ子	日高桃子	花城スミ子	仲宗根美花		

#### 笛

仲田浩己 太鼓

#### 「作田節」

ほ花咲きづれば ちりひぢもつかぬ  
しらちやにやなびちあぶしまくら

#### 【歌意】

稻の穂が咲き出ると、塵や泥もつかない  
稻は重そうに稻先を垂れてなびき  
稻の穂先は畦によりかかって  
あたかも畦を枕にするほど稔っているよ。

#### 「早作田節」

なんじゃうすなかへ こがねぢく立てて  
ためしすりましゅる ゆきのま米

#### 【歌意】

銀の白に、黄金の軸を立てて糲を摺り  
精げてみると、今年の米は減るどころか  
予想以上に分留りのよい雪のような白い米であるよ。

## ⑪ 本部会長挨拶

琉球古典音楽野村流保存会 会長 勝連 繁雄

## ⑫ 古典舞踊 二歳踊り

高平良万歳

舞踊 宮城洋子研究所

宮城洋子

箏

寺本さやか

笛

仲田治己

歌・三線 宮城秀夫研究所

宮城秀夫

胡弓

安田まり子

柏原雄人

太鼓

登坂寛

宮尾博一

## 「道行口説」

- 一 親の仇を討たんてやり  
万才姿に打ちゃつれ  
棒と杖とに太刀仕込んで
- 二 編笠深く顔かくち  
忍び忍びに立ち出でて  
村々里々越え来れば
- 三 平良や忍ぶ敵の門  
兄弟尻目に見過して  
後の道に巡り来て
- 四 行く末吉の御神に  
祈る心は我が敵に  
急ぎ引合はせ賜れてやり
- 五 登て社壇に願立てて  
真南に向ひて眺むれば  
四方の景色の面白や
- 六 慶伊と慶良間の渡中には  
海土の釣船浮きつれて  
沖のかもめと見まがふや  
それから下り下り来てヤエイ  
御寺御門に立ち寄やり  
休む姿や他所知らぬ

## 「萬歳かふす節」

万才かふすややんざいかふすや  
 二月御穂立て穂祭りや  
 天より下りの何の日取りや  
 よい日取り米や重さり石や軽さり  
 天より下りの布織上手の綾織男の  
 錦の金襷唐苧の金襷  
 男の長者の荷馬の長者の  
 荷負ひよはれてやんざよはれて  
 やんざやんざと馬で通乗れば  
 一段とほめられた  
 今日も明日も御祝事よ

## 「おほんしゃり節」

隣の耳切れ鼻切れ跛<sup>ぐに</sup>引き猫が  
 日はげ首白鼠に

荒頽喰われてあべらじをらばじ  
 飛のかじ思入や  
 里一人だうヤエイ里が物云い  
 ぐらしゃな何にたてるがやえ  
 ふだのぢゃげなや

## 「さいんそる節」

京の小太郎が作たんばい  
 尻ほけ破れ手籠  
 尾すげて板片目貫ち  
 乗り来たるみいははと  
 しいつやうんつやうん  
 やんざいかうすや馬舞者  
 がいじ舞うた獅子舞うた  
 かにある物御目  
 掛けたみをかしゃばかり  
 シタリガツヤウンツヤウン  
 ヤーツヤウンツヤウン

## 【解説】

「道行口説」「万才かふす」「おほんしゃり節」「さいんそる節」の四曲で構成された万才踊りで、単に「万才」とも呼ばれる。琉球の国劇とされる組踊り「万才敵打ち」の中から兄謝名の子と弟慶雲の舞踊として独立させた二才踊り。踊りの主題となるのが「万才口説」で、親の仇を討とうと万才姿に身をやつし、編笠を深く被り、敵を求めて旅に出た兄弟が末吉宮に参拝し、そこから眺めた景色の素晴らしい目にやり、改めて二人の秘めた決意を確認する内容となっている。緊張の中での道行きの場面である。二曲目の「万才かふす」では旅芸人の京太郎になりすまし、獅子頭、馬頭を持ち、敵の面前で踊る設定。「おほんしゃり節」では猫や鼠のまねなどして空手風に踊り、最後の「さいんそる節」では逃げ惑う敵、高平良御鎖を追い回し、見事目的を果たして帰っていく場面で、全体を通して大変劇的な構成となっている。各所に見所があるが、特に「おほんしゃり節」の「隣の耳切れ」の所で観客に背を向け奥に歩きながら、左右の足を交互にあげる「二段がまく（腰）」の所作は特に高度な技術が要求されるもので、重要な部分である。元来は二人踊りだが、近年は一人舞いも多い。

## 13 古典音楽 独唱

## 仲村渠節／赤田風節／本花風節

仲村渠節： 歌・三線  
野村香司

箏  
仲宗根美花

赤田風節： 歌・三線  
大城貞吉

箏  
神谷ケイ子

本花風節： 歌・三線  
東江邦夫

箏  
寺本さやか

### 「仲村渠節」

仲村渠そばいどますだれはさげて  
あにあらはもとまば忍でいもうれ

#### 【歌意】

「すべいど」に簾をさげてあるが、其処者は私の寝床  
になっているから  
他所目にからぬように忍んでおいでなさい。

### 「赤田風節」

赤田門やつまるとも  
恋しみもの門やつまてくいるな

#### 【歌意】

赤田門は閉まっていても両方の溝から自由に出入り  
出来るので差し支えはないが、  
みもの門は閉まってくれるな。

### 「本花風節」

三重城にぬぶて打ちまねく扇子の  
またもめぐり来て結ぶ御縁

#### 【歌意】

三重城にのぼって出船を見送る扇子は、  
無事旅をされて戻られるよう祈ってうちまねいてい  
ます。

## 14 古典音楽 独唱

## 二揚下出し仲風節／二揚下出し述懐節

二揚下出し仲風節： 歌・三線  
宮城秀夫

箏  
神谷ケイ子

二揚下出し述懐節： 歌・三線  
仲宗根善久

箏  
日高桃子

### 「二揚下出し仲風節」

結ばらぬ片糸の  
逢はぬ恨みとてつもる月日

#### 【歌意】

結ばれない片糸のように、二人は会うこともできな  
いのを恨みながら、  
ただただ月日がつもっていくのが、やるせなくいら  
立たしい。

### 「二揚下出し述懐節」

いな昔なるいあはれ語らたる  
馴れしい言葉のくたぬうちに

#### 【歌意】

そんなに昔のことになってしまったか。思いどおり  
にならないことを、  
なげき合った言葉は朽ちもせず、つい昨日のことの  
ようだが、年月のたつのは早いものだ。

15 古典舞踊

かけかけ

舞踊 新城久美琉球舞踊道場

宮里しげみ

歌・三線 大城貞吉研究所

大城貞吉 與那覇朝成 知念良弘

箏

大城朝子

笛

前田裕美

太鼓

石嶺哲

「千瀬節」

七読みと二十読み 緒掛けて置きゆて  
里が蜻蛉羽 御衣よすらね

【歌意】

七読み、二十読みの細かい緒をかけ、あなたのため  
にとんぼの羽のように薄くて上質な布を織って差し  
上げましょう。

「七尺節」

枠ぬ糸緒に 繰り返し返し  
掛けて面影の 勝て立ちゆさ  
緒掛けて伽や ならぬものさらめ  
繰り返し返し 思ど増る

【歌意】

糸巻きの枠に糸を、繰り返し繰り返し巻いていくにつれ、あなたの面影が重なっていくのです。緒をか  
けて糸つくりの作業をすることで、思いをまぎらそうとするのですが、繰り返すごとにあなたへの思い  
が増すばかりです。

16 古典音楽 独唱

本調子仲風節／本調子述懐節

本調子仲風節： 三線  
勝連繁雄

箏  
宮城光子

本調子述懐節： 三線  
水谷亮介

箏  
北村澄子

「本調子仲風節」

語りたや 語りたや  
月の山の端にかかるまでも

【歌意】

語りたい語りたい  
月が山の端にかかるまでも

「本調子述懐節」

さらば立ち別らよそ目ないぬうちに  
やがて暁のとりも鳴きゆら

【歌意】

さらば今日はこれで別れよう。誰にも見られない中  
に、やがて暁の雞（にわとり）も鳴くであろう。

## 17 琉球舞踊雑踊

加那よ一天川

舞踊 喜扇本流千歳会・川口喜代子琉球古典舞踊研究所

川口圭子（男役） 川口道子（娘）

歌・三線 仲宗根善久研究所

仲宗根善久 仲宗根栄 金城吉春 伊差川大介

箏

北村澄子

指笛

荒井つや子

太鼓

笠原真理子

### 「加那ヨー節」

カナヨー面影の立てばヨーカナヨー  
宿に居られらぬ  
ハルヨーンゾヨーカナヨーシーシ  
できやよ押し連れて 遊で忘ら  
カナヨー貫木屋のあしゃげ 手巾布立てて  
我が思る里に なさけ呉らな  
カナヨーなさけ呉るばかり 手巾呉て  
何しゆが  
がまくくん締める めんさ呉らな  
カナヨー遊で忘ららぬ 踊て忘ららぬ  
うみまで行きゅさ あれが情

### 【歌意】

愛しい人の面影が立つともう家にじっとしておれない。さあ、連れ立って遊んであの人のことは忘れましょう。立派に建てられた離れの家で花染手巾を織つてあの人に愛の印として差し上げましょう。愛の印ならどうして手巾なのですか。どうせなら腰をしつめているミンサー帯をあげましょう。あなたのことは遊んでも踊っても忘れることができません。思いはふくらむばかりです。

### 「天川節」

天川の池や  
千尋も立ちゅら  
おれよりも深く  
思てたばうれ

### 【歌意】

天川の池の深さは千尋もありますが、それよりもっと深く私を思ってください。

### 特別出演

喜扇本流川口喜代子琉球古典舞踊研究所  
宮城洋子琉球舞踊研究所  
玉城流喜納の会関東支部 関りえ子琉球舞踊研究所  
玉城流煌扇会 新城久美琉球舞踊道場  
真踊流佳瑞の会 瑞慶山和子琉舞道場

### スタッフ

舞台監督 花城昇宏（琉球民謡協会支部長）  
司会 佐々木仁子  
音響・照明 明治座舞台株式会社  
撮影・編集 テトラ商会 西仲野栄藏  
制作 琉球古典音楽野村流保存会関東支部  
支部長 水谷亮介  
副支部長 大城貞吉  
副支部長 小西睦子  
事務局長 濱田武志  
印刷・デザイン Studio yk2g Group.K's Factory

### 後 援

沖縄県・東京沖縄県人会・東京琉球舞踊協会  
沖縄タイムス社・琉球新報社・沖縄芸能協会  
琉球民謡協会関東支部

広告の掲載を頂き誠にありがとうございました

琉球古典音楽野村流保存会関東支部 第7回記念公演実行委員会

# 沖縄剛柔流空手道 円水館

## 館長 宮城 秀夫

稽古日 (少年部) 水曜日・金曜日 PM4時～6時  
(一般の部) 日曜日 PM6時～8時

住所 〒164-0013 東京都中野区弥生町2-52-8 城西本社ビル301  
TEL・FAX 03-5385-0580 ホームページ<http://www.geocities.jp/ensuikan>



### 道場訓

一、先人を敬い礼節を守ること。  
二、日々研鑽、精進に徹すること。  
三、意地が出たら手を引け。  
手が出たら意地を引け。  
四、空手に先手なし。  
五、空手道の精神を社会に役立てること。

## 琉球古典音楽 野村流保存会

## 琉球古典音楽 野村流保存会

# 宮城秀夫古典音楽研究所

## 師範 宮城 秀夫

初心者歓迎 親切指導 地謡指導

稽古日・・・日曜日 AM10時～PM5時

住所 〒164-0013 東京都中野区弥生町2-52-8 城西本社ビル301 円水館内  
TEL・FAX 03-5385-0580 ホームページ<http://www.geocities.jp/miyagihideo>



# 宮城洋子琉球舞踊研究所

## 主宰 宮城 洋子

稽古日…火曜日・土曜日 PM4時～9時

住所 〒164-0013 東京都中野区弥生町2-52-8  
城西本社ビル 円水館内

TEL・FAX 03-5385-0580

ホームページ <http://www.geocities.jp/ryukyubuyo>

### 世田谷教室

代稽古 富村 博子

稽古場 宮坂区民センター（東急世田谷線宮の坂駅徒歩1分）

稽古日 第1・第2・第4月曜日 PM1:00～3:00

問合せ TEL：03-3325-3736 / 03-3428-1764（菊池武次）

### 流山教室

代稽古 多田 明江

稽古場 南流山センター

稽古日 每週月曜日 PM6:00～9:00

問合せ TEL：0471-59-0136

### 埼玉教室

代稽古 知念 常子

稽古場 埼玉県朝霞台弁財市民センター

稽古日 每週金曜日 PM6:00～9:30

問合せ TEL：048-486-5644

# 祝 関東支部 35 周年記念公演

琉球古典音楽 野村流保存会

師範 仲宗根善久研究所

(自宅) 〒902-0063 沖縄県那覇市三原 2-36-26

電話 098-834-5957 携帯 090-5735-1127

(教室)

1. 新宿教室 (沖縄食堂やんばる JR 新宿駅東口徒歩 3 分)  
〒160-0022 新宿区新宿 3-23-6 TEL03-3353-2026 担当東
2. 杉並教室 (阿佐ヶ谷比嘉ビル JR 阿佐ヶ谷駅北口徒歩 4 分)  
〒166-0001 杉並区阿佐ヶ谷北 1-28-9 TEL03-3339-2726 担当比嘉
3. 本部教室 (本部旅館 国頭郡本部町字渡久地バス停徒歩 1 分)  
〒905-0214 本部町字渡久地 141 番地 TEL0980-47-2050 担当知念

○2013 年度沖縄タイムス伝統芸能選考会入賞者  
新人賞 仲間裕子 優秀賞 仲宗根栄 最高賞 島武夫

○師範 東嵩純 久田友昭 大城貞吉 野村香司

○教師 親盛隆司 小西睦子 親川佐盛 島武夫 知念靖治

○会員 知念福一 安場淳 森山朝貞 比嘉芳子 渡辺エミ

伊差川大介 徳永猛 金城吉春

# 祝 関東支部 35周年記念公演

琉球古典音楽 野村流保存会

小西睦子研究所

教師 小西睦子（沖縄県石垣市出身）

〒343-0841 埼玉県越谷市蒲生東町 19-40

直通 090-4139-3434

メールアドレス sansin109109@yahoo.co.jp

ブログ <http://sanshinschool.ti-da.net/>

メンバー（五十音順）

安里嗣則

今泉勉

入迎里陽香

上原瞬

上原吉勝

及川麻理子

加地 芳恵

川瀬美和子

川野香織

川野和好

小磯知里

越恵吾

坂内敬

坂内晴香

知名歩

塚本綾子

新倉末子

祝

琉球古典音楽野村流保存会

関東支部35周年記念公演

琉球古典音楽野村流保存会  
宮城康明研究所

宮城 康明

琉球古典音楽野村流保存会師範  
琉球古典音楽野村流保存会評議員  
琉球古典音楽野村流保存会那覇支部幹事

県指定伝統音楽野村流保存会伝承者  
国指定重要無形文化財組踊保持者  
県指定伝統舞踊保持者

沖縄タイムス社伝統芸能選考会選考委員  
沖縄タイムス・カルチャースクール三線講師  
首里伝統芸能文化協会理事  
芸能協会評議員  
湛水流伝統音楽保存会会員



---

研究所所在地: 沖縄県那覇市首里石嶺町2-179-5

電 話: 自宅 098-886-9494 携帯 090-3011-1851

那覇教室稽古日及び稽古時間

火曜日 10:00~12:00  
水曜日 10:00~20:00  
木曜日 10:00~20:00  
土曜日 10:00~12:00

東京教室

稽古場所、稽古日等につきましては、下記にお問い合わせください。  
電話: 080-5430-6300(岩片)

師範	宮 城	明 勝	平 良	子 加
師範	瑞慶山	則	藤 茹	智 ツル
師範	比 嘉	康 良	手 嘉	盛 盛
教師		史 也	仲 嶺	子 雄
教師		吉 和	新 嶺	祥 敬
教師	平 宜	智 聖	新 城	一 薫
教師	藤 儀	麻 緒	上 江	和 健
教師	宮 間	幸 靖	青 山	康 弘
教師	大 島	喜 八郎	栗 山	直 一
教師	岩 片	美 奈子	熊 原	樹 輝
教師	崎 原	育 子	念 村	千 文
教師	又 吉	和 子	松 波	紗 耶
教師	加 藤	郁 恵	津 村	理 音
教師	渡 邊	隆 子	西 原	一 椿
教師	谷 川	昇	比 原	紬 紬
一般	比 嘉	孝 子	比 嘉	あすみ
一般	佐 久 川	紀 弘	垣 花	由 惟



東京教室の稽古風景

# 黒潮総合法律事務所

## 民事全般

〒101-0046 千代田区神田多町2-7-3-6 F  
TEL 03-3251-7090 FAX 03-3251-7094  
Email : akirahidaka@mbd.nifty.com

# 祝 第七回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会

比嘉康春研究所

教師 日高 桃子

稽古場最寄り駅：丸ノ内線・大江戸線本郷三丁目駅 千代田線湯島駅  
Email : akilaw@aol.com  
(沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻第3期生)

# 祝 第七回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会  
八重山古典安室流協和会

師範 鳩間 昇

石垣市平得282 TEL/0980-88-8041

野村流東京教室・・西東京市ひばりが丘4 池野様方  
安室流東京教室・・中野区中野5-47 小浜様方

琉球箏曲保存会  
八重山箏曲弾の会

師範 鳩間 美智子

# 祝 第七回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会

師範 野村香司研究所

電話 03-5697-0147

E-mail:koji0327@adachi.ne.jp

# 祝 第七回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会

教師 柏原雄人

〒164-0011 東京都中野区中央3-24-15鍋谷横丁ヒルズ  
tel/090-5770-5814

# 祝 第七回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会

教師 登坂 寛

〒303-0033 茨城県水海道市橋本町3556  
tel/090-3335-7289

# 祝 第七回琉球古典音楽の会



東風平 出身

沖縄料理  
しゅうずかん

泡盛

港区南麻布1-5-3 TEL03-3451-6108  
18:00-24:00(日曜定休日)

美味しい沖縄料理としゅうずかん厳選泡盛



## 笹の会

嘉数世勲

〔笛・胡弓・三線・民謡  
琉球舞踊と組踊の地謡〕

東京練場

琉球古典音楽野村流保存会

重要無形文化財組踊（総合認定）保持者

県指定無形文化財沖縄伝統音楽保持者

連絡先 〒900-0031 沖縄県那覇市若狭2-11-21 携帯 090-4516-9235

笹の会ホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~sasanokai/>

# 祝 第七回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会

教師 濱田武志

〒108-0072 東京都港区白金3-9-18-201  
tel/090-2935-5080/thama@r9.dion.ne.jp



# きらせんかい 玉城流煌扇会

新城久美琉球舞踊道場

師範 新城久美

代稽古 新城美佳 携帯:090-1880-4175

東大島教室(江東区) 金曜日18:00~21:30

松戸教室(松戸市) 日曜日18:00~

〒271-0067 千葉県松戸市樋野口551 パークハイツ102  
TEL/FAX 047-366-5701

宮里しげみ琉球舞踊道場

教師 宮里しげみ

江戸川区教室(江戸川区) 土曜日14:00~

〒133-0065 東京都江戸川区南篠崎3-29-12

クリスタルハイム瑞江402

TEL/FAX 03-3677-2513

## 祝 第七回琉球古典音楽の会 関東伊江島城会 役員名簿 [2012年～2014年(3年)]

会長	福原和美(18期)
副会長	大城貞吉(15期) 德永洋(13期) 大城勝章(26期)
事務局	事務局長 知念正明(26期) 事務局次長 松永良江
会計	知念広子
監査	山城政重(19期) 德永猛(12期) 前田成隆(18期)
顧問	大城友宏(13期) 安村正信 大城長保(15期)
相談役	安里健和 大城治助 安村幸八 安里祐全 安村昌康 安里昭徳 伊江村長 伊江村議長

事務局: 東京都品川区南大井6-16-4 戸浪大森ビル6F(伊江プロセス内) tel03-3764-9561

## 祝 第七回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会

教師 東江邦夫

〒176-0011 東京都練馬区豊玉北1-10-11-306  
tel/090-1614-9335

# 祝 関東支部35周年記念公演

琉球古典音楽 野村流保存会関東支部 大城貞吉古典音楽研究所

師範 大城 貞吉

板良敷 朝英 上里 民智徳 仲間 功

新城 聰 與那霸 朝成 知念 良弘

〒134-0085 東京都江戸川区南葛西6-4-13 TEL/FAX 03-3675-4635 携帯 090-3318-1776

# 祝 関東支部35周年記念公演

琉球古典音楽 野村流保存会関東支部 大城貞吉古典音楽研究所

教師 板良敷 朝英

# 祝 関東支部35周年記念公演

琉球古典音楽 野村流保存会関東支部 大城貞吉古典音楽研究所

教師 上里 民智徳

# 祝 第七回琉球古典音楽の会

沖縄料理「ちゃんぷるう家」料理長

## 富着良彦

〒104-0061 東京都中央区銀座3-4-16銀座サニービルB 1  
TEL : 03-5524-2163



営業時間 (年中無休・年末年始除く)

平日 11:30~15:00 (ランチ)  
17:00~24:00 (LO 23:00)  
土日祝 11:30~24:00 (LO 23:00)

最寄駅-地下鉄「銀座駅」C 8 出口

# 祝 第七回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会

師範

## 水谷亮介

〒236-0043 横浜市金沢区大川17-7-917  
TEL/FAX045-784-1856  
携帯 090-9237-9843  
lotte-takarazuka2014@ezweb.ne.jp

# 税理士法人 Y S 東京中央会計 会長

(株)銀座電子計算センター  
東京沖縄県人会  
東京琉球舞踊協会  
関東伊是名郷友会

代表取締役  
最高顧問  
名誉会長  
会長

那覇商業関東同窓会  
関東沖縄経営者協会  
芸能学会  
T. K. C 東京中央会

名誉会長  
顧問  
監事  
相談役

# 仲田会計事務所

所長税理士 仲田 清祐

連絡先

〒154-0024

東京都世田谷区三軒茶屋1-39-7-1002 Tel/Fax03-3418-4877

リフトって家の  
改造が必要でしょ？しかも  
大袈裟だしジャマにならないの？  
ウチには無理  
だと思うの ...

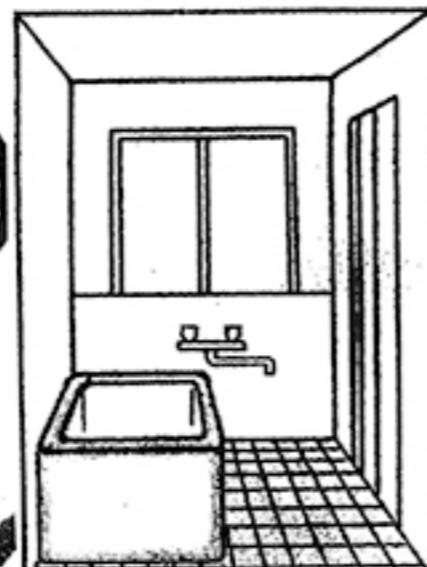


そんなことは

**ありません**

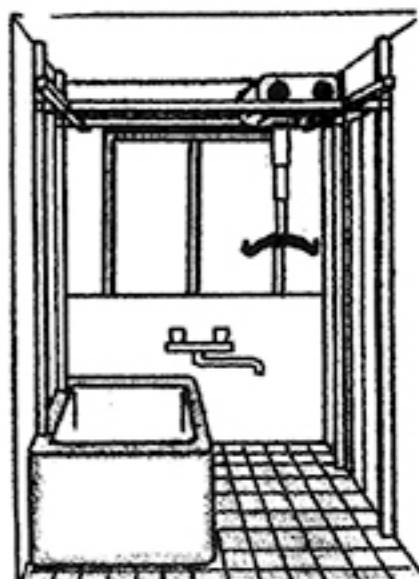


\*補強工事しなくてもビス1本打たずに取り付けられます

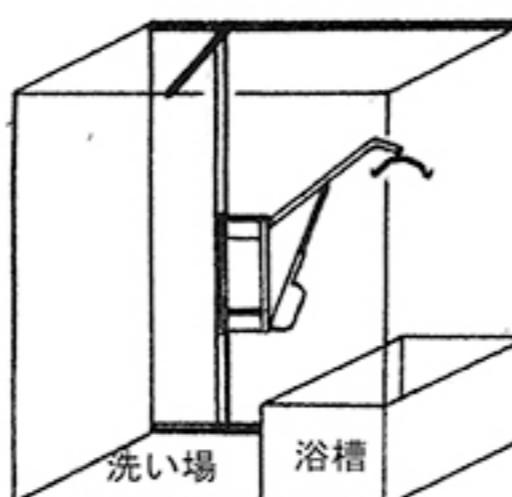


改造不要  
浴室に合わせてフレーム  
を組み立てますので、ど  
んな浴室にも簡単に取り  
付けられます。  
即日使用可能

★リフトを上げておけば、他の方の  
入浴のジャマにはなりません。



★場面によってリフトを使い分ければ安全・快適生活★



助成制度ってあるの？

福祉助成制度はございます。  
お気軽にご相談下さい。

お電話お待ち  
致しております



株式会社 ビック・バン TEL03-3752-8458 (代)



おめでとうございます

琉球古典音楽野村流保存会

# 関東支部35周年記念公演



## 沖縄横笛協会

関東在住教師・師範一同

師範 前田 裕美 小平市鈴木町1-371-11 連絡先: 090-3530-4997

師範 宮良 政子 新座市新座2-1-7 連絡先: 080-6771-5155

師範 鈴木 智子 厚木市愛甲2-11-1-202 連絡先: 090-9244-1397

教師 湯淺 満里子 中野区沼袋4-32-6 ファミール堀野A-415

教師 杉田 直子 さいたま市桜区田島3-25-9-204 連絡先: 080-3120-6434

教師 大塚 修一 昭島市中神1171-48

沖縄横笛協会ホームページ <http://okinawa-yokobuekyoukai.com/>

## 祝 第七回琉球古典音楽の会



琉球箏曲保存会

師範 北村澄子研究所

〒203-0034 東京都久留米市弥生1-2-37 TEL: 0424-68-8004

師範 川崎郁恵研究所

〒167-0021 東京都杉並区井草1-14-9-202 TEL: 03-5932-6312

師範 神谷ケイ子研究所

〒120-0012 東京都足立区青井1-18-3 TEL: 03-3840-8578



# 第7回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会

## 寺本さやか研究所



〒160-0022

東京都新宿区新宿 3-8-5 中川ビル 2F

沖縄料理 城

TEL : 03-5269-2269

教師 寺本さやか

稽古日

日曜日 18:00 ~ 21:00

月曜日 19:30 ~ 22:30

教師 佐藤舞

遠山泰永

杉山和敬

杉山晴美

佐藤建一郎

大窪美登子

田畠暢弥

豊田有美





喜扇本流宗家家元

# 東京琉球舞踊協会

川口喜代子琉球古典舞踊研究所

全日本舞踊連合会沖縄県代表参与

東京沖縄県人会副会長

会長 川口喜代子

〒182-0007

東京都調布市菊野台 2-22-11-202

Tel/Fax 042-480-3874

## 稽古日

### 千歳会（本部）

市民プラザあくろす〈調布市国領町〉

（月曜：6時～9時 木曜：6時～9時）

### 千歳会（国分寺支部）

（土曜：1時～5時 / 6時～9時）

その他 特別指導・予約制

第7回  
琉球古典音楽の会